

水野教育長記者会見 概要

日時：令和7年4月21日（月）16時00分～16時32分

場所：大阪府庁別館6階 委員会議室

教育委員会の取組みについて

【水野教育長より】

①「Safety Bicycle 推進校」プロジェクトについて

今般の府内における高校生世代の自転車を取り巻く社会情勢が変化していることを踏まえ、生徒が主体的にヘルメット着用を含めた自転車の安全利用について「考え、学び、行動する」ことを目的とした「Safety Bicycle 推進校」プロジェクトを昨年度大阪府教育庁と大阪府警察本部の交通部が連携・協働して立ち上げ、6校でスタートしたところです。

各推進校では地域や地元警察と連携して、小学校で実施している自転車安全講習会に高校生が参加したり、自転車ヘルメット着用をテーマに各クラスでグループワークをしたりするなど、生徒が自転車安全利用を考えて、行動しております。

このたび、第2期の推進校指定におきまして、公立では、東淀工業高等学校、福泉高等学校、みどり清朋高等学校、美原高等学校、たまがわ高等支援学校、堺市立堺高等学校、そして私立では、金光桐蔭高等学校、帝塚山学院泉ヶ丘高等学校の8校となっております。

この推進校の取組みを他校に広く周知していくために、夏には推進校等が集まって自転車安全利用を議論する「Safety Bicycle つながるサミット」を開催する予定です。

学校に横展開していくことが大変大切なところではありますので、具体的なことが決定しましたら、皆さんにも発表させていただきますので、ぜひご注目いただければ幸いです。

②大阪府立学校校長および大阪府公立小・中・義務教育学校任期付校長の募集について

大阪府教育委員会は、大阪府立学校および大阪府公立小・中・義務教育学校において魅力ある学校作りを進めるため、組織をまとめるマネジメント力と教育に対する熱意を持ち、柔軟な発想や企画力をいかした学校運営や学校の課題を解決できる優れた人材を幅広く募集し、選考を実施します。

募集は、明日4月22日火曜日から開始し、期間は令和7年6月11日の水曜日までとなっております。

また、5月23日金曜日には、グロービス経営大学院大阪校にて公募校長説明会を実施いたします。説明会の参加など、公募についての詳細は、府のホームページをご確認ください。皆様の応募をお待ちしております。

③教員スタートアッププログラムの開催について

大阪府教育委員会では、教職として学校現場で働くことに興味を持っていただくため、教員免許状はあるけれども、教職に就いたことがない方や、教職から長く離れている方を対象に、今の学校の様子を学ぶことができる「教員スタートアッププログラム」を開催しております。

このたび、今年度の第1回目を、5月11日（日曜）に、四天王寺大学あべのハルカスサテライトキャンパスにて開催いたします。

4月10日より、府のホームページ上で申込みの受付を開始しています。昨年度、5月に開催した際は、大変好評をいただき、早々に申込みが定員に達しましたので、お早めにお申し込みいただければと思っております。

なお、府教委では、講師登録についても随時受付をしております。詳細は府のホームページをご確認ください。

④離職者再採用制度の受験申込開始について

大阪府教育委員会では、これまで介護を理由に離職する方を対象とした再採用制度を運用してまいりましたが、この間、介護以外の理由により、やむなく退職する方がいる一方で、昨今の人材確保を取り巻く環境が非常に厳しい状況にありますことから、令和7年度より、退職理由を問わず、府内公立学校で教員等として一定の経験を積んだ後に離職した方を対象とした、再採用制度を新たに実施します。

受験申し込みは4月7日（月曜）から11月4日（火曜）までとなっており、募集職種および教科のほか、制度の詳細については、教育庁のホームページをご確認いただければと思います。ご興味のある方はぜひチェックしてみてください。

⑤英語エキスパート教員採用選考について

大阪府では、小・中・高等学校を通じて、児童生徒の皆さんに「生きた英語」を身につけてもらうための取組みを進めております。

この取組みの一環として、大阪府教育委員会では、グローバル化に対応した英語教育に取り組む府立高校に、高い英語運用能力や指導力を備える英語エキスパート教員を配置し、各校の英語4技能に対応した授業作りと、授業を担える教員の育成を進めているところです。

現在、令和8年度当初採用選考の募集を行っているところであり、5月16日（金曜）の午後6時まで、申込みを受け付けております。

府のホームページでは、日本語版だけでなく英語表記の募集要項も掲載しております。残りわずかとなりましたが、引き続き応募をお待ちしております。

⑥2025 年大阪・関西万博と「知」を繋ごうプロジェクトについて

大阪府立中央図書館では、2025 年大阪・関西万博の来場促進と、万博の理念・テーマを多くの府民の方に知っていただこうと、万博会期中に様々なイベントを企画しております。

その第 1 弾として、この 5 月から始まる「大阪ウィーク 春の陣」に合わせて、中央図書館におきまして、子どもも大人も楽しみながら、万博について知ることができるクイズラリーを開催いたします。

正解者にはかわいい万博オリジナルノベルティのプレゼントも用意しているので、ぜひご参加ください。

約 300 万冊の蔵書を誇る中央図書館では、万博のテーマに関連する図書も多数所蔵しております。万博をより深く理解し楽しんでいただくためにも、中央図書館をぜひともご活用いただければ幸いです。

今後、大阪ウィーク夏の陣や秋の陣でも、図書館ならではの魅力的なイベントを行い、万博を盛り上げていく予定ですので、ぜひ中央図書館にもご来館ください。お待ちしております。

全てのイベントについては、もちろん参加は無料となっております。

⑦府立弥生文化博物館 春季企画展の開催について

府立弥生文化博物館では、6 月 22 日曜日まで春季企画展「いのち輝く古代中国社会のデザイン」を開催しています。

今回の展示では、現在開催中の大阪・関西万博のテーマにも掲げられている「いのち」に着目しました。

「いのち」は、過去から現在に至るまで人間の最大の関心事とも言えるものです。古代中国においても、祖先をまつるために用いられた青銅製の器や、不老長寿・子孫繁栄を願った鏡など、「いのち」に関わる数多くの文物が作られました。

博物館が所蔵する、こうした古代中国の資料により、古代中国の悠久の歴史を紹介します。この機会にぜひご来館いただき、資料に息づく「いのち」を感じ取っていただければ幸いです。

また、会期中は週末を中心に、古代中国にスポットを当てた講演会や、鏡を鋳造するワークショップなども開催します。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

⑧2025 日本国際博覧会児童・生徒招待事業について

4 月 14 日月曜日より大阪・関西万博への児童・生徒招待事業がスタートしました。14 日から 18 日までの 5 日間で、72 校から約 17,000 人の子どもたちが万博会場を訪れました。

これまでに来場した学校については、ゲート、バビリオン、団体休憩所の入退場をスムーズに行えており、順調に進んでいると考えております。

また、参加した子どもたちからは、「大屋根リングからの景色がすごかった。」「いろんな

国のことが知れてよかった。」「友達みんなで来られて、楽しかった。」等のポジティブな反応が多かったと聞いております。

この事業の催行にあたり、博覧会協会、大阪メトロ等の鉄道事業者、そしてバスの事業者等、多くの関係機関にご尽力いただきました。改めて感謝を申し上げます。

また、校長先生をはじめ、子どもたちの引率にご尽力いただいた学校関係者の皆様にもお礼申し上げます。

まだ開幕から 1 週間が過ぎたところでもあり、これから多くの学校が来場することになるため、引き続き各学校の皆様をしっかりとサポートをし、安全・安心に来場いただけるよう努めてまいります。

⑨教育長による学校訪問について

私の学校訪問に関しましては、まだ学校も始まって間もないところですが、4月16日に豊中高校、千里高校、茨木西高校、そして茨木高校を訪問して参りました。私からは以上です。

質疑応答

○万博児童・生徒招待事業に係るサポート窓口の対応状況について

(産経新聞)

万博の教育旅行のことについて確認させてください。確か万博会場の方で教育庁としてトラブルに対しての対応をサポートする窓口等を設けていたと思いますが、その利用状況は把握されていますか。

(水野教育長)

現段階で私は細かいところを把握しておりませんので、ぜひ担当の方にお問い合わせいただければと思います。

○教育長が描いている万博児童・生徒招待事業による教育的効果

(産経新聞)

まだ始まって 1 週間経ったばかりのところですが、初日は現場に行かれたと思います。今、寄せられている感想や学校現場の教育に万博の招待事業がどのような機能を果たしているか、今後どんなことが期待できるか、教育長としてどのように受け止めてらっしゃいますか。

(水野教育長)

常々、お伝えしております通り、子どもたちがみんなで来るというところに教育的効果が

高いと信じて、無料招待事業を進めてきました。

小学 1 年生と中学 3 年生の教育的効果というのは全く違うとは思いますが、各学校の授業と連動して万博にみんな来て、世界の最先端技術をみんなで見、そしてそれを持ち帰ってまた授業にフィードバックしていくようなところをイメージすると、やはり教育的効果は高いと私は信じております。

そのような中で、教育的効果が高かったかどうかというのは、現段階ではなかなかすぐに見えるものではないのですが、これから様々な課題があるこの世界において、5 年後、10 年後に「あの万博に行って、こういう技術に触れて、わくわくして、自分はこういう道に進んだ。」というように技術者だけではなく、さまざまな若者が万博をきっかけに出てくれば、まさに教育的効果が高かったと言えると思います。

現段階では、来た子どもたちが「この技術はすごかった」など、友達とキラキラ目を輝かせながら喋っている様子を見ると、やはりやってよかったなと、この 1 週間を見ております。

(産経新聞)

何か数値が出る事業ではありませんので、「夢を育む」ではないかもしれませんが、そういった効果が期待できるという感触でしょうか。

(水野教育長)

そうですね。万博に行ったから、急に全国学テの数値が上がるようなことをめざすものではないと捉えています。

○教員不足に対する課題意識について

(朝日新聞)

教員スタートアッププログラム、離職者の再採用制度についてお聞かせください。どちらも新しく教員を採用するに当たって、離職された方や、免許を持っていたとしても教員として働かなかった方をターゲットにした取組みだと思います。教員採用の方も定年ギリギリまで枠を拡大されていたと思います。

やはり、教員不足というのは大阪府内でもどれくらいの課題になってきているのか、また、今後どのように対処していかなければならないか、お考えをお聞かせください。

(水野教育長)

教員の数というのは、採用試験を受ける方たちの数、退職をされる方たちの数の出入りを見る中で、やはり不足していると捉えています。

ただ、正採用の先生が足りていないというよりも、例えば年度途中で先生が育休・産休に入られたときに、代替講師の先生に入っていただくのですが、その講師の先生が不足してお

り、すぐにその現場を埋めることができていないことが大きな課題と捉えております。

なぜ、講師が少ないのかというと、教員採用試験の合格者が昔のような12倍とかではなく、今は3倍程度ですので、教員志望者が埋まっていつているからというところからも考えられます。

ですので、全体的な課題意識を持ちながらも、人材不足の観点もありますが、スタートアッププログラムや離職者再採用制度は、多様な方に教員として子どもたちと接してほしい、教職として頑張ってもらいたいという狙いもあります。

民間で様々な経験をされ、一定のキャリアを積む中で、「やっぱり子どもたちに授業をしたいな。」と思って入ってこられる方々が、学校現場に新しい風を吹かせてくれるのではないかと期待するところもあります。

(産経新聞)

単に教員不足に対応したいというだけではなく、学校現場ではいろんな考え方や多様性について教えると思います。そういった中で、やはり民間の経験者の方にそういった知見を授業や教育の場で生かしてもらいたい、そういった狙いがあるということでしょうか。

(水野教育長)

おっしゃる通りです。

○万博児童・生徒招待事業によって期待する教育的効果について

(日経新聞)

万博招待事業について、お伺いします。先ほど、教育的効果が見込まれるので実際に取り組みをしたとおっしゃっていたと思います。

なかなか具体的に数値で測るのは難しいとは思いますが、どれくらいの教育的効果を見込んでいるのか、何となくイメージがつくようなものがあれば教えてください。

(水野教育長)

なかなか数値で割り切れるものではないということが前提ですが、それを極力努力して説明しようとするならば、例えば中学生が海外に行って、他の文化と触れることに対して教育的効果はあると思われますか？

(日経新聞)

あると思います。

(水野教育長)

そうですね。とある中学生が特定の国に行って、その国のご飯を食べたり、コミュニケ

ーションをしたり、語学を学ぶことで、効果があるとすれば、それにかかるコストというのは、行く国にもよりますが1週間行ったら、おそらくは10万円から20万円もしくは30万円かかるかと思います。そのことを考えたときに、今の万博会場で特定の国際的なパビリオンを回っていくことで、いろんな海外の方と接することができますし、国のことも知ることができますし、ご飯も食べることができます。私もいくつかパビリオンを回らせてもらいましたが、何といいいますか、国ごとに匂いというのがありました。あまり嗅いだことがない匂い、これがこの国のお料理の匂いなのかなと感じながら、刺激も受けたのですが、コスト面だけで言えば、そういった経験をまとめてできる機会を万博以外で得ようとしたら、もっとコストがかかってくるかなとは思っています。

ですので、教育的効果の数値というよりは、あの経験を万博以外でしようとするなら、もっと金銭的成本はかかるだろうなとは思っています。

○万博子ども招待事業の評価方法について

(日経新聞)

ちなみに成功か、もしくは成功に一步届かなかったなどを後から振り返って評価することはありますか。

(水野教育長)

何年後ぐらいのイメージでしょうか。

(日経新聞)

そうですね。もしあれば構わないんですけど、効果があったのかどうか、後から振り返ったときの評価をする基準のようなものを教えていただきたいです。

(水野教育長)

現段階で府教育庁として、明確に掲げているものはございません。しかしながら、教育的効果が大切だという議論の中には、それこそ大阪の70年万博が成功だったのか、失敗だったのかというところは中長期的に総括できるじゃないですか。

当時からこれだけ時間が経ってるので、そのときの万博が「成功だった。」とおっしゃる方のお話を伺ったことがあります。

小学校のときにパビリオンを見て、そこから自分は社長になって、社会変革を起こしてるんだという方と、複数人、私もお会いしたことがあります。会ってお話しをすると、やっぱり成功だったんじゃないかと感じるころはあります。

ただ、こういった方々が何人いたのかとなると、なかなか検証はできないと思うので、やはり今、我々にできることは、子どもたちに多く来てもらい、見てもらって、わくわくしてほしいな、何か未来を切り開くきっかけになってほしいなど、強い思いとしてはあります。

○英語エキスパート教員について

(朝日新聞)

英語エキスパート教員について初めて知ったのですが、採用の条件が英検 1 級など、かなりレベルの高い先生を求めておられると思います。現状の採用状況、そして順調に採用できているのか、採用状況は難しいのか、その辺りの状況を教えてくださいませんか。

(水野教育長)

この令和 7 年度当初に関しては 4 名採用しており、府立高校で既に活躍をしていただいています。現時点では、府立高校で 20 名が英語エキスパート教員として授業をしていただいているところです。

採用状況は、申し込み人数が 10 名から 20 名ほどの間で、合格者が 1 名から 5 名程度です。令和 6 年は申し込み人数が 33 名と多く、合格者は 4 名です。私も高校に訪問した際、この英語エキスパート教員の先生の授業を見せてもらいました。高い英語力をお持ちであることはもちろんですが、日本語の理解や生徒理解に対しても深い知識を有していると伺えました。

府教育庁としましては、生きた英語を学んでほしいですし、「文法が間違ったらどうしよう」と臆するのではなく、まず自分の言いたいことを表現して欲しいです。府教育庁が重視しているそういった点を英語エキスパート教員の先生が支えています。

また、ときに、英語エキスパート教員の先生が授業を中心にされる際、ALT というサポートをするネイティブの先生がつくこともあります。すると、教室にいる先生は両方ともネイティブの方なんですよね。その様子を私が見学した際、「ずいぶんと大阪の英語教育は進んでいるんだな。」と感じました。

(朝日新聞)

ほとんどは海外出身の先生ですか。

(教職員人事課)

ほぼ 100% が海外からの方です。

○万博招待事業における熱中症対策について

(ABC)

夏に近づくにつれて、熱中症であったり、特に子どもたちは危険な状態になったりなどすると思いますが、そちらについても、特に子どもたちに対しての対策などは何か考えておられますでしょうか。

(水野教育長)

通常の校外学習、いわゆる学校の遠足でも、先生方が本当にこの時期の遠足について考えておられます。安全対策をしっかりといただいている上で、我々側としても、例えばですが、大屋根リングの下がどの程度混雑するのかというのもだんだん見えてきますので、平日に子どもたちもその日陰でいつでも休めるような状況なのか、もし休めない状況であるのであれば、何か日陰を用意するなどを考えていかななくてはなりません。

給水についても1人当たり20秒ぐらいでできるのですが、他の来場者の方も相まって、もし200人の行列ができたなら、1人当たり20秒とはいえ、なかなかの時間になってきます。果たしてそれが夏の一番暑いときに、その数で足りるのか、そういったところも、随時見ていきつつ、適切に博覧会協会等には要望・要請をしていきたいと思っております。

万博に限らずですが、安心安全が校外学習においては何より大切なことですので、学校の意見を聞きながらアップデートしていきたいと思っています。

○万博への校外学習における課題点などの共有方法について

(産経新聞)

万博の招待事業について、お伺いします。通常の校外学習ですと、学校内での蓄積といたしますか、前年行ったからこそ様々なケースなどを想定して準備するなど、課題点を想定して実施すると聞いてるのですが、万博の場合は先に行った学校のケースを、後から行く学校に展開していかないと、なかなか課題点が現場では見えてこないのかなと思います。そういった情報共有のあり方は、どのようにされてるのでしょうか。

(水野教育長)

まさにそこが大切なところでして、おっしゃるように万博である以上、前年度のケースというのではないじゃないですか。ですので、今回多くの学校が来てくれますが、「もっとこういう準備をしておけばよかったな」、「こういうところが困ったな」というところを、府教育委員会としてもヒアリングをしまして、それらをこれから来ようとする学校さんに共有していこうと考えています。現状ではホームページで、アップしていく想定をしています。

(産経新聞)

それは一般に公開する形か、それとも府立学校の関係者しかアクセスできないような形なのでしょうか。

(教育総務企画課)

詳しい方法については、まだ検討中でございますけれども、各学校に我々が連絡をするときに「教育庁システム」というシステムを使っております。そちらの方に例えばFAQがございますとか、そういった部分の掲載をしておりますが、そこに我々の聞き取った内容を掲載

するというやり方で考えております。もう少し、具体的なやり方は引き続き、検討させてもらいたいと思います。

（水野教育長）

ですので、知見を溜めていき、それをしっかりと共有していきたいということが目的です。

（産経新聞）

教育庁システムでFAQを共有していくという話ですが、どちらかというと下見に訪れた際に、そういった課題点があったんだということがわかっていると、下見の際に、どうすればいいかという検討ができるように思います。そういった流れに関して、何か工夫されたりする点はありますか。

（水野教育長）

もう既にスタートしている事業でもありますけれども、下見の段階での横展開や情報収集というところは、我々としてもなかなかつかみかねるところではあります。

逆に、既に行った方々にフィードバックを聞くというやり方で、ご懸念のところもケアもしくはカバーをしていけるんじゃないかと考えています。